

混沌とした中から

日本式セキュリティポリシーについて（3）

米国式のセキュリティポリシーが日本では受け入れられないのではと書きましたが、これはつまり、「セキュリティポリシーがほしい」とか「組織的にセキュリティ対策を実践したい」といったときに、本屋で売っている実用書などによる通り一遍の方法では実現が難しいということになります。実際に導入する場合には、コーポレートガバナンスの概念に基づくそれなりの説得力ある説明が必要になりますし、従業員への理解を促すフォローを加えた組織的浸透が大切になります。これらは、周到に準備され、部門責任者と十分な打ち合わせを行ったうえで、タイミングを図って実行する必要があります。

ところで、「セキュリティポリシーが欲しい」とか「現在のポリシーを見直したい」といった要望があった場合、その奥底に流れるものには、いくつかの種類があります。

- ① 認定基準にとられない企業風土に合ったセキュリティポリシーを整備し、運用体制の監査までを外部委託する。
- ② どんなものでもセキュリティポリシーがあればいい。
- ③ とにかくポリシーが欲しい。内容は二の次。
- ④ I SMSガイドに沿ったポリシーが欲しいが、認定取得までは考えない。
- ⑤ I SMSガイドに沿ったポリシーを策定し、認定取得まで外部委託したい。
- ⑥ I SMSガイドに添わなくても組織の現状を反映したもので、費用を重視したポリシーとしたい。

このうち多いのは、③と④で、雛形にはめ込んでポリシーを策定することが多くなってきています。雛形ありきですから、確かに短時間でポリシーは出来てしまいます。しかし、ポリシーの背景にある企業の本質、実態について考慮する時間がないために、項目ごとに抜けがあった場合、そのミスを見つけることが出来ないということがあります。大体、業種によって「社内の書類」、「個人情報」、「業務データ」などの種類ごとの機密区分や情報の取得フローは全く異なっているはずですが、①～④の場合、ポリシー自体はいいものであっても、実態がついてくるものではありません。すぐにボロが出るようなものであったり、やっつけ仕事であったり、またすぐに有形無実化して、ただの紙切れと化すこととなります。確かに②や③はよくあることです。つまり、「国外企業とのB to B」、「海外資本との業務提携」、「外資の介入」などによって仕事をするためにセキュリティポリシーが必須となった場合です。インスタントなポリシーなら1ヶ月程度勉強すれば誰にでも作ることは出来ます。問題はそのポリシーが企業に根付いたものになるかどうかで、従業員の理解が得られず、反感をもたれたものになってしまう意味がないということです。

確かにセキュリティポリシーについては、社内の委員会で策定し、その委員会に経営者が加わることによって、会社方針として公開されるものとなっています。しかし実際問題どのような委員会が作られ、構成委員の専門知識水準がどの程度のもので、どの程度討議された上で策定されるかという実態を見た場合、上記の②や③がおおいことも事実です。さらに問題なのは、ポリシーを作ったことによって安心し、当然必要とされるポリシーの見直しがほとんどされていないのも事実ではないかと考えられます。それはどのようなことに原因があるのかとなった場合、策定しろと命令する経営者とポリシーを押し付けられたとする従業員と、使命感に燃える情報部門の一体感のなさにあります。（次回へ続く）

(今週の情報誌から)

○日経エレクトロニクス 7月4日号

特集 リビングで向き合う放送と通信

→リビングといえばテレビ。アナログからBS、CS、デジタルとなってきたが、2010年にFTTHが3000万世帯に普及すると通信と放送の融合が現実のものになる。ISPから提供されるセットトップボックスがホームサーバも兼用する。ISPが提供すれば家電メーカーの参入する余地はあるのか。テレビは通信端末になる。

○日経システム構築 7月号

特集 最強のシステム基盤

→最強のシステム基盤とは何か。各企業の基幹システムが、場当たりのメンテナンスを繰り返すために複雑怪奇となり、1つ変更することが大変になってきている。メンテナンスの限界に陥り、システム基盤の整備に乗り出してきている。そのポイントはデータと共通機能をアプリケーションから切り離すこと。各システムからデータを切り離し、共通データベースを構築し、さらに共通機能も切り離す。

○日経バイト 7月号

特集 壊れないコンピュータ

→コンピュータが高価な機器から事務機器の1つになり始めている。これまで大事に扱われてきたものが簡単に扱われ、サーバですら事務所の一角に誇りまみれでおかれていることも多い。このような劣悪な環境下でも壊れないコンピュータを目指して、各社取り組み始めている。

○ASCII 7月号

特集 デジタル化でよみがえるレコード盤

→山積みになっているレコード盤ありませんか。20kHz以下をカットしてしまっているCDに対して192kHzで録音すればもっと高音質になる。もちろん、ターンテーブルなどのほかに外付けのオーディオインターフェース(PC内臓ではPC内部の電磁ノイズを拾いやすい)も必要。

○NETWORK WORLD 8月号

特集 60分でわかるVPN

→WANを構築するためのVPN(インターネットVPN、IPVPNなど)について、各サービスの分類と選択のポイントについて、解説書を読んでもいまいちわからないというときに読めばわかる。

特集 pingコマンド活用極意

→障害原因を突き止めるために使う「ping」の使い方。ICMPの解説から帰ってきたデータの内容から何が読み取れるかを詳細解説。